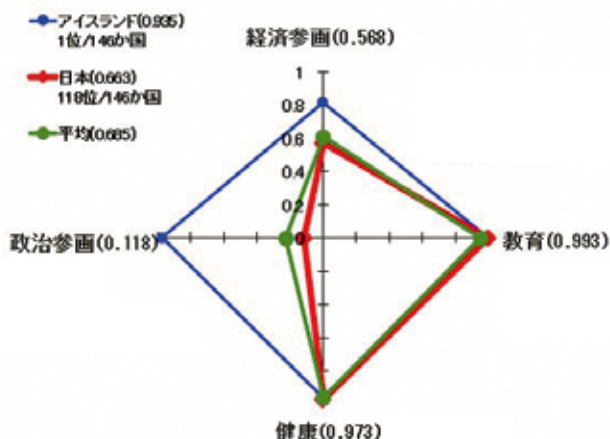


特集

男女共同参画社会と アンコンシャス・バイアス

問合せ やさしさ支援課（内線 3421）

ジェンダー・ギャップ指数※ (GGI) 2024 年

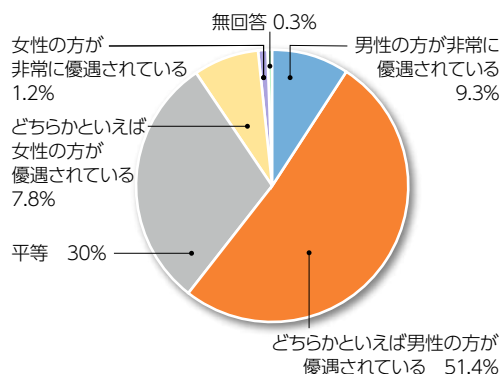


順位	国名	値
1	アイスランド	0.935
2	フィンランド	0.875
3	ノルウェー	0.875
4	ニュージーランド	0.835
5	スウェーデン	0.816
7	ドイツ	0.810
14	英国	0.789
22	フランス	0.781
36	カナダ	0.761
43	アメリカ	0.747
87	イタリア	0.703
94	韓国	0.696
106	中国	0.684
116	バレーン	0.666
117	ネパール	0.664
118	日本	0.663
119	コモロ	0.663
120	ブルキナファソ	0.661

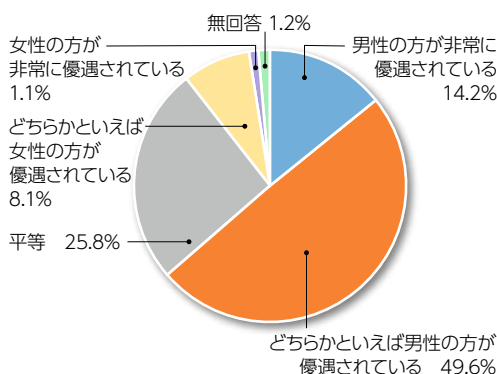
※世界各国のジェンダー平等の達成度を指数にしたもの。
「0」が完全不平等、「1」が完全平等を示す。

出典：男女共同参画局（男女共同参画に関する国際的な指数）

男女の地位の平等感(家庭生活)



男女の地位の平等感(職場)



出典：内閣府世論調査「男女共同参画社会に関する世論調査（令和6年9月調査）」をもとに加工して作成

男女共同参画社会とは、男女がお互いを尊重し、喜びや責任を分かち合い、自分らしく個性と能力が発揮できる社会です。しかしながら、日本では男女共同参画社会の実現には至っていない状況がうかがえます（左図）。その理由の一つに、アンコンシャス・バイアス（無意識の思い込み）が存在していることが挙げられます。

今月の特集では、アンコンシャス・バイアスについて知り、誰もが自分らしく生きられる社会の実現に向けて、私たちにできることを考えてみましょう。

誰もが持つ無意識の 思い込み

アンコンシャス・バイアスは、「無意識の思い込み」・「無意識の偏見」などと表現され、私たちの生活や社会にさまざまな影響を及ぼします。

突然ですが、次のクイズの答えを考えてみてください。

少年とその父親が交通事故に遭い、2人とも大けがをし、救急車で別々の病院に運ばれました。少年を担当した外科医は、少年の顔を見るやいなや「自分の息子の手術はできない」と言いました。

さて、この外科医と少年の関係は。

この文章を読んだとき、とっさに「父親は別の病院に運ばれたのでは」と思いませんか。

答えはいくつか考えられますが、最もシンプルなのは「外科医は少年の母親」です。外科医は男性という思い込みがあると思いつきにくいかもしれません。

このように、私たちは無意識のうちに、過去の経験や周りの状況から、思い込みで物事を判断してしまうことがあります。

アンコンシャス・バイアスの問題点

アンコンシャス・バイアスは、過去の経験や日常的に接する情報、学校や職場などの環境から脳に刻み込まれ、既成概念や固定観念として形成されます。これは、効率的に物事を捉えようとする脳の働きによるものです。このため、アンコンシャス・バイアスは誰もが持っているもので、持つこと自体は決して悪いことではありません。

しかし、自分が持っているアンコンシャス・バイアスを認識していない

思い込みや偏見をセルフチェック



そうだと思うものにチェックを付けてみましょう。

- ☐ 食事の準備やお茶を入れるのは女性の役割だ
- ☐ 真夏の屋外での作業は男性がするべきだ
- ☐ 女性は早いうちに結婚するものだ
- ☐ 男性は結婚してこそ一人前だ
- ☐ 家事・育児をメインにやるのは女性だ
- ☐ 共働きでも男性は仕事を優先するべきだ
- ☐ 女の子はおままごとなどで遊ぶものだ
- ☐ 男の子は人前で泣いてはいけない
- ☐ 女性はきめ細かな作業が得意だ
- ☐ リーダーは男性が務めるべきだ

いくつチェックが付きましたか。チェックが付くこと自体が悪いわけではありません。大切なことは、このチェックシートをきっかけとして、自身のアンコンシャス・バイアスに気づくことです。

社会に与える影響

いと「男性は普通こうするだろう」「女性はこうした方がいいだろう」などと、勝手な思い込みを相手に押し付けてしまい、相手を傷つけたり、相手に誤った評価をしてしまったたりすることがあります。

アンコンシャス・バイアスは、他人に対してのみ影響するものではありません。自分に対しても「男性だから」「女性だから」などと思いついてしまうことで、挑戦する機会を

逃したり、自分の可能性を狭めたり、成長の機会を逃すなど、ネガティブな影響を与えることがあるので注意が必要です。社会や組織から見ると、多様な人材が活躍する機会を逃すだけでなく、人権侵害やハラスメント、コンプライアンス違反といった問題につながっていく可能性があります。

教育現場では「男性は理系、女性は文系」といった考えが、子どもの進路選択を狭め、その結果、本人の可能性を制限し、社会全体の発展に影響を与える恐れがあります。

アンコンシャス・バイアスを減らす3つのポイント

ポイント①

「べき」「普通は…」に注意



「べきだ」「普通は…」といった押しつけ・決めつけの言葉が出たら、立ち止まって考えてみましょう。

ポイント②

相手の「サイン」を見逃さない



話をしているとき、急に相手の表情が曇ったり、声のトーンが変わったりしたときは自身の言動で相手を傷つけたのではないかと振り返ってみてください。

ポイント③

常に自分に問いかける

完全に払拭するのは難しいからこそ、常に自分の言動を振り返り、問いかけることが大切です。



（出典：政府広報オンライン「アンコンシャス・バイアスを減らす3つのポイント」）誰もが活躍できる社会に

誰一人取り残さない社会へ

SDGs とは、2030 年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標のことです。

17 のゴール・169 のターゲットから構成され、地球上の誰一人取り残さないことを誓っています。

鴻巣市では「女と男、ともに咲かせよう自分らしさの花～男女共同参画の視点でまちづくり～」という基本理念のもと、国際的に後れをとる「ジェンダー平等」の達成に向けた施策を展開しています。

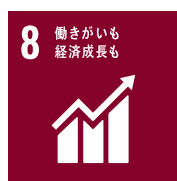
アンコンシャス・バイアスを理解することは、ジェンダーギャップを減らし、さまざまな目標達成につながっていきます。



3 すべての人に健康と福祉を



5 ジェンダー平等を実現しよう



8 働きがいも経済成長も



10 人や国の不平等をなくそう



11 住み続けられるまちづくりを



17 パートナーシップで目標を達成しよう

「なくす」ではなく
「気づく」

アンコンシャス・バイアスは、長年にわたって形成された考え方や習慣のため、なくすことは難しいです。大切なことは、自分の考えが思い込みではないかと疑い、気づくことです。

自分の認識・考えだけが正しいと思いつまず、自分と異なる価値観をもとに行動している人がいるという

ことを前提にコミュニケーションをとることで、一人ひとりが異なる存在として、互いの個性を尊重し合うことができます。

性別に関わらず、誰もが自分らしく生きやすい社会を実現するためにはさまざまな考え方や生き方を受け入れることが重要です。

思い込みにとらわれず、それぞれが自分らしい道を歩めるよう、まずは気づくことから始めてみませんか。

6月23日～29日は「男女共同参画週間」です

男性と女性が互いに尊重し合い、それぞれの個性と能力が発揮できる「男女共同参画社会」を実現するためには、市民のみなさん一人ひとりの取組が必要です。私たちのまわりの男女のパートナーシップについて、この機会に考えてみませんか。鴻巣市では期間中、以下の取組を行っています。

男女共同参画コーナーパネル展示



場所 市民活動センター内男女共同参画コーナー
期間 6月17日(火)～30日(月)
内容 統計に見る女性の「仕事」と「生活」のいま

市役所ロビーパネル展示



場所 市役所本庁舎ロビー
期間 6月16日(月)～30日(月)
内容 男女共同参画に関するパネル展示

図書館テーマ展示



場所・期間
● 鴻巣中央図書館
6月27日(金)～7月23日(水)
● 吹上図書館
5月23日(金)～6月29日(日)
● 川里図書館
6月13日(金)～29日(日)
内容 男女共同参画に関するテーマ展示

出前講座を利用しませんか 「男女共同参画の実現に向けて」

鴻巣市では、年間を通じて、地域の集まりや職場、学校、さまざまな場所(市内に限る)に出向いて講座を行っています。男女共同参画について、分かりやすく説明しますので、ぜひご利用ください。



▲市HP出前講座



鴻巣市男女共同参画情報誌
「ほほえみ」編集委員長

こいけ まなみ
小池 真奈美 さん



男女共同参画と聞くと、女性性が常に不平等な扱いを受けているというイメージを抱きがちですが、実際は男性側も、古くからある固定観念などから、働きづらさを感じていることがあります。男性と女性で役割分担するのではなく、互いの得意・不得意を理解したうえで、補い合うという考え方をすることが大切だと感じています。

アンコンシャス・バイアスは、個人の長年の経験に基づいて形成されるので、それをすぐに変えるということは

難しいです。大切なことは、個人の考え方を変えるのではなく、他の考え方もあることを知り、受け入れることです。この特集を読んで終わりとするのではなく、これから何かに気づき、男女について考えるきっかけにしてほしいと思います。

識者に聞く

男女共同参画社会と アンコンシャス・バイアス

男性の育休取得率は3割を超えましたが、まだまだ表面的なものに感じます。例えば、平日の授業参観とその後の懇談会に参加しているのは、ほとんどが母親です。これは、無意識のうちに男性は母親が行くもの、女性は自分が行くものと考えてしまっているからかもしれません。

私が代表を務めるNPOでは、農体験や自然体験を通じて、男性が子育てにもっと関わるきっかけの場を提供しています。

男性がもっと地域や学校の

NPO 法人グリーンパパプロジェクト
代表理事
鴻巣市男女共同参画審議会会長

よしだ ひろき
吉田 大樹 さん



行事に関わることで、女性に偏る家事や育児面での負担が減り、働く意欲のある女性のキャリアアップにもつながります。それは社会全体にとってもプラスに働きます。

誰かにこうしなさいと言われても、人は変われません。自ら気づくと納得感があるので、行動変容につながります。男女共同参画社会実現のため、ぜひ皆さんに一歩踏み出していただければと思います。



▲NPO法人
グリーンパパ
プロジェクトHP